

テーマ
と
全体ビジョン

3

テーマは 『昭和の賑にぎわいを求めて』

(1) テーマへの想い

昭和 33 年 11 月 1 日、北条市が誕生。それから合併までの約 50 年間、北条は昭和とともに発展を遂げてきました。昭和 30 年代、高縄山に県下初の屋外マンモススケート場が完成し、海水浴場としてにぎわいを見せていた鹿島に国民宿舎が建設されました。中心部には 4 つの映画館（大正座、文化会館、戎座、風早劇場）があり、テレビが普及する昭和 40 年頃まで市民の娯楽の場所として栄えていました。昭和 40 年代、続く経済成長の中で生活水準が向上。好景気に支えられ、みかん需要が増大し、難波地区に集団みかん園が造成されました。東京オリンピック後、スポーツ熱の高まりでスポーツが生活の一部となり始め、北条青少年スポーツセンターが完成したのも時代の象徴と言えます。

昭和 45 年の大阪万国博覧会では、国内外に向けて北条の郷土芸能である伊予万歳を披露。また、昭和 50、60 年代に、北条出身の脚本家早坂暁氏によるテレビドラマのロケ地として、渥美清さんらが撮影に訪れました。そしてドラマの効果から北条が全国から脚光を浴びるきっかけとなり、地元でも商店街などを中心に大いににぎわいました。家族や地域が深く結びつき、まちも人も暮らしも活気に満ちあふれる、昭和とはまさにそんな時代でした。

こうしたあの頃のにぎわい、活気を求めることは、地域全体の活性化につながっていくものと期待されます。昭和のにぎわいを求め、持続的な発展を目指した取り組みを様々な分野において推進していきます。

全体ビジョンは 再生・継承・創造

(2) 全体ビジョン

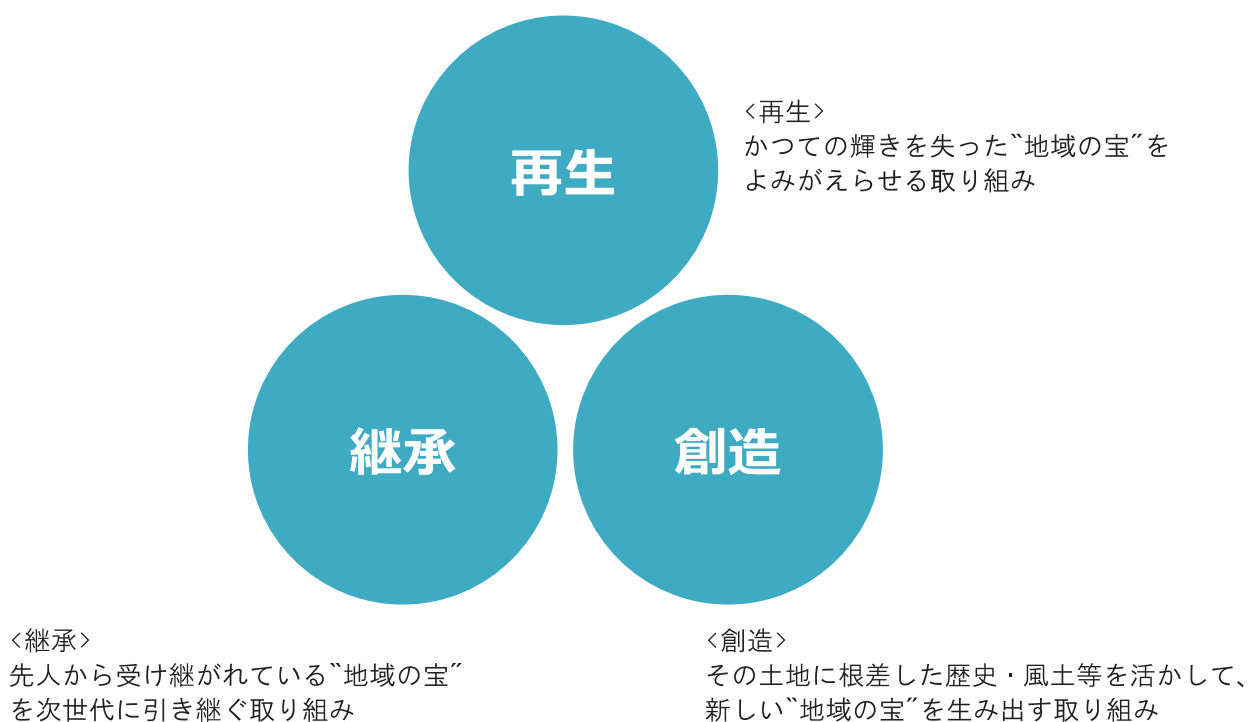
かざはや 風早レトロタウン構想

「レトロ」とは懐かしいと感じる、いわゆる「懐古」のことであり、時間を振り返ることで生まれる感情である。

風早レトロタウン構想とは、時間を「過去」「現在」「未来」に分け、

「過去」のものを「現在」へ（再生）
「過去」のものを「現在」から「未来」へ（継承）
新たなものを生み出し「未来」へ（創造）

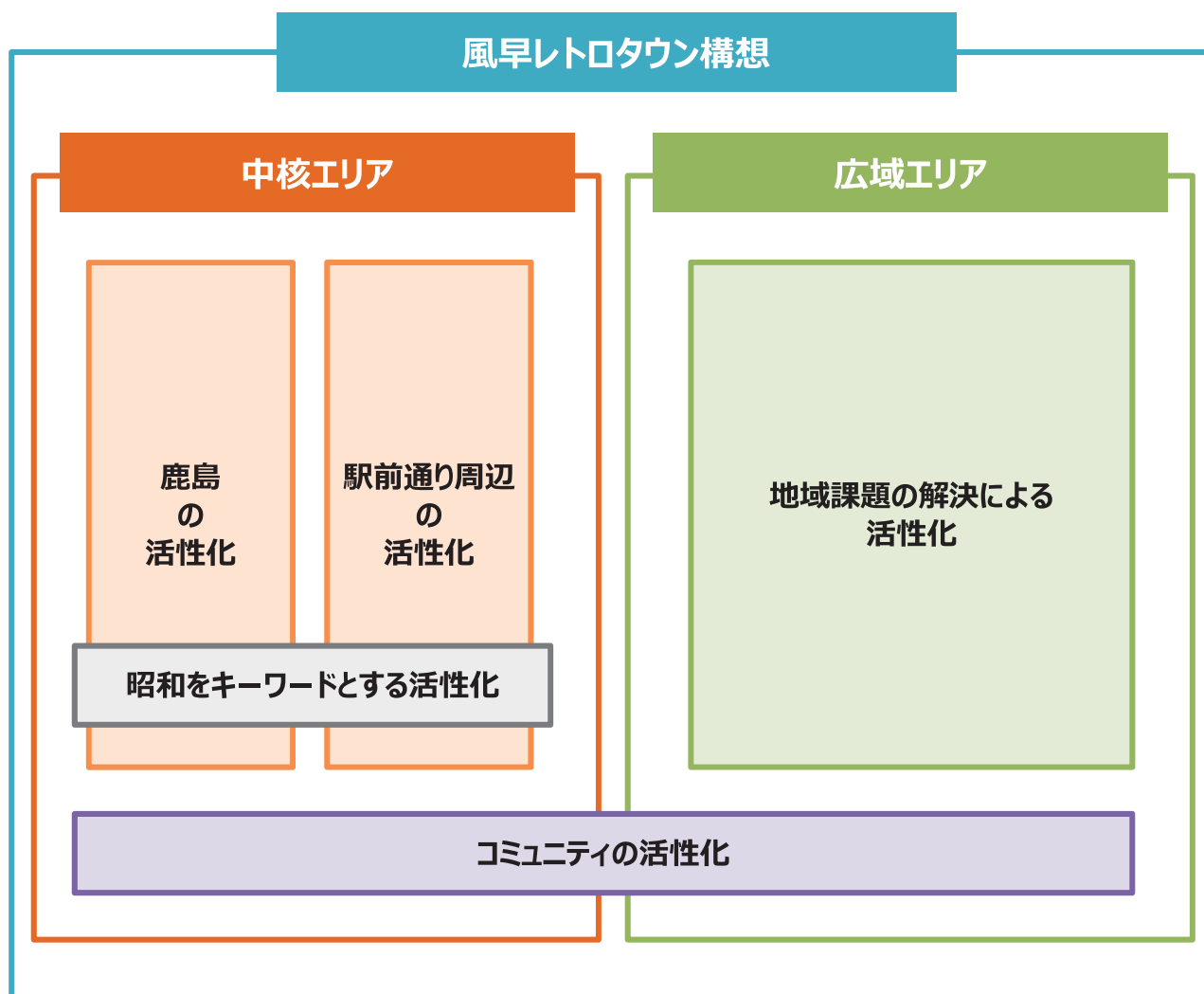
この3つの視点で取り組み、「再生」「継承」「創造」することで、北条地域の活性化の実現を目指すものである。



(3) 構想の考え方

風早レトロタウン構想は、「昭和の賑わい^{にぎ}を求めて」のテーマのもと、「再生」「継承」「創造」の3つの視点で北条地域の活性化を目指します。

鹿島とJR北条駅前通り周辺を対象とする『中核エリア』と、その他の地域を対象とする『広域エリア』の2つのエリアで構成し、『中核エリア』は「昭和をキーワードとする活性化」を視野に入れながら、「鹿島の活性化」と「駅前通り周辺の活性化」を中心に進め、『広域エリア』は「地域課題の解決による活性化」を進めます。更に「コミュニティの活性化」も図りながら、北条地域の活性化へとつなげていきます。

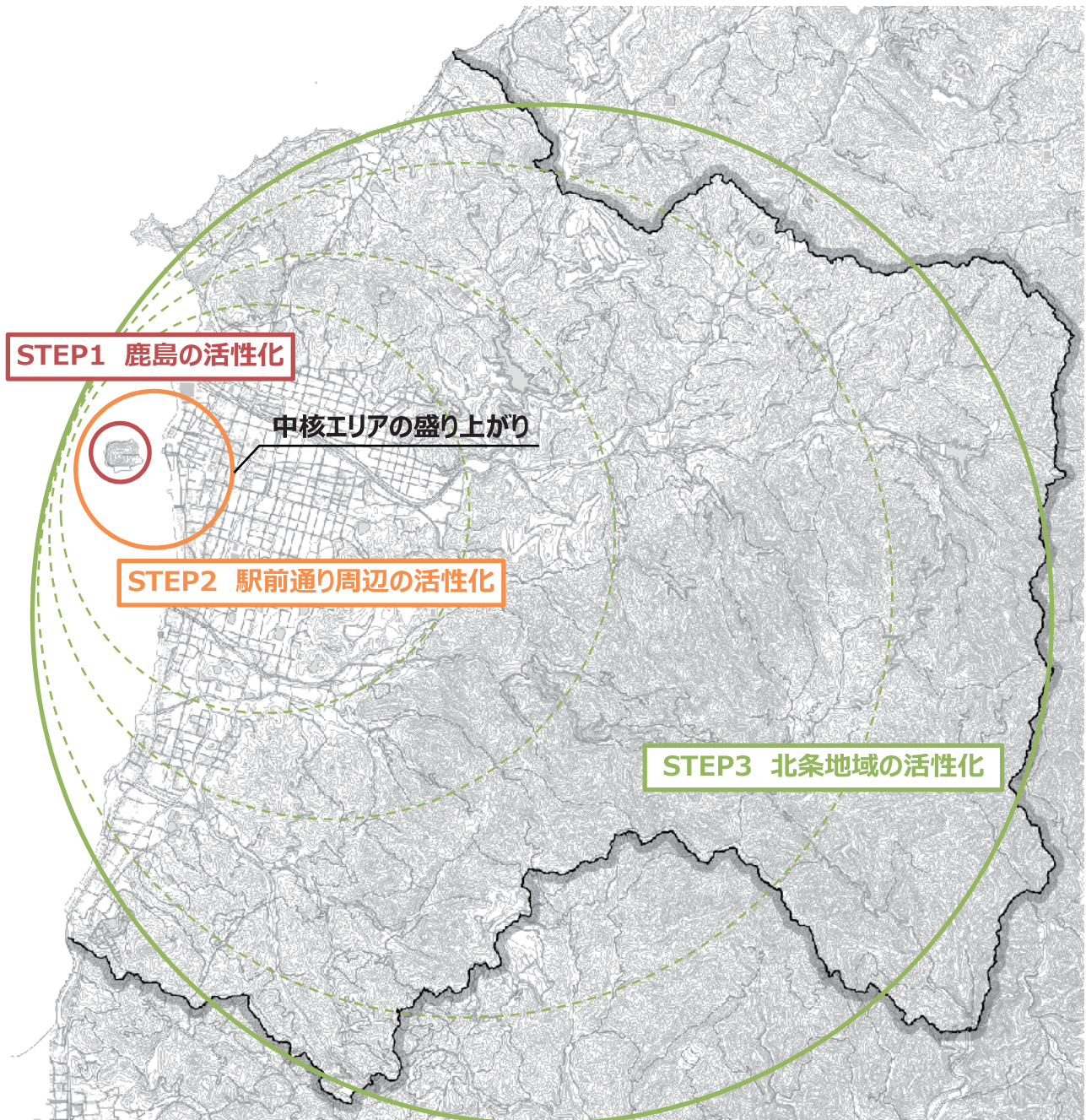


(4) 構想の進め方

かざはや

風早レトロタウン構想は、中核エリアの活性化を起点とし、3つのSTEPで進めます。

STEP1 北条の誇る地域資源「鹿島」の活性化を図り、鹿島に人を集め、人の流れをつくれます。そして地域の機運が高まることで、STEP2 鹿島と連携しながら駅前通り周辺の活性化を図ります。人が集まり、人が動くことで、中核エリアの盛り上がりにつなげ、STEP3 北条地域の活性化へと取り組みを広げていきます。



この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1基盤地図情報(愛媛県)を使用したものである。

(5) 5つのポイント

風早レトロタウン構想は、北条地域の活性化の実現を目指し、以下の5つのポイントに基づいて取り組みを進めることで「再生」「継承」「創造」へとつなげていきます。

資源活用	地域の資源を様々な視点で見つめ直し活用することで、既存の魅力を磨き上げるとともに、新たな魅力の創出を図ります。
環境整備	景観、環境を整備し価値を高めることで、地域住民の満足度を高め、誇りを育むとともに、訪れる人にとっても魅力ある空間づくりを図ります。
情報発信	地域の魅力を効果的かつ効率的に伝えることで、一人でも多くの人の興味・共感につなげ、参加・共有へと広げていきます。
交流促進	集客を図ることに加え、訪れる人との交流の場をつくることで、地域住民の機運やおもてなしの心の醸成を図ります。
協働推進	地域住民、関係団体、大学、民間事業者、行政などが協働することで、それぞれの強みや役割を活かし、取り組みが継続する環境を整えます。